

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	運営理念の2番目に地域交流との交わりを重視する項目があり、それに添ってサービスを行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日の申し送り(ミーティングの時)に、全員で理念を唱えて実践できるように、一人一人が言葉を心に留めて介護を行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	ホールの開設時に地域住民に説明している。又、運営推進会議の時、事前に書類等を送付している。玄関・事務所等に掲示している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	散歩に行った時に、近所の人や会った人に挨拶をしたり、又来所された人に声を掛けたりして、交流できるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	納涼祭の時など、地域の人に声を掛けて参加してもらっている。又お祭りや、菊花展などに参加して交流に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>施設の雰囲気なごやかにして、近所の高齢者の方や、知人・友人の高齢者の方に来所してもらい和やかな時間を持ってもらっている。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を実施した後、改善点やこれからの取り組み方をスタッフ同士で話し合い、改善に努めている。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の後、色々な意見や評価について検討し、話し合い、入居者の生活に役立てている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所に行った時や、電話連絡を取った時に職員の人と話し合いの時間を持ち、質の向上に努めている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修を受け、対応できるようにしている。又、スタッフ同士で話し合い活用できるように検討している。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員同士で常に虐待に対する話し合いの時間を持ち、気をつけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に十分な話し合いを持ち、説明し、入所後も不安がないように常に声掛けや話し合いを持っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情対応の講習を受け、入居者の意見や苦情に対して、スタッフ全員で話し合い対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度は様子や写真にて報告をしている。又、訪問された時や、電話連絡を受けた時、詳細を説明している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所時に意見や苦情に対して対応できる事を説明しているが、その他も、玄関先に意見箱を設けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度の会議を設け、連絡事項とともに意見を聞いている。又、常に良い方向に反映できるように努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の方が外出、外泊をする時、その時間に合わせた対応をしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職する時など、「辞める」という事など言わずに自然に入居者が受け入れられるように対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>常時研修などのチェックをして、必要な研修がある場合は、研修が受けられるように、勧めている。又、その後発表の場を設け実施している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修の時などに、他の施設の話の聞いたり、又他の施設の見学に行ったりして、良いところを取り入れるようにしている。昨年、連絡協議会が設立されて、当ホ - ムも参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の不安や意見をよく傾聴して、改善できる事は改善している。話し合いの場を設けている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の職員に対し、向上心を持つように働きかけている。</p>	
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居する前に本人と面談し、不安に対しての配慮をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所事項を説明した上で、出来るだけ多く家族の方と連絡をとり、不安の解消や要望を取り入れている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対して、グループホームで対応ができるかどうかを判断して返答している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に体験入所の時間を持ち、本人が馴染めるかどうか、又他の入居者との関係がうまくいくかどうか、レクリエーションや食事等をして頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護の場としてとらえるのではなく、共に生活をする場所と考え、助け合うことに重点をおいている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見などを十分に聞き、一緒に意見交換などをして介護に反映している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の希望と家族の要望をよく聞き、双方の関係が良くなるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ無理がいかないように、入居者の希望を聞き、良い関係が築ける様に支援し、環境も整えている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に声掛けに努め、入居者同士がより良い関係が築けるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービスが終了しても、入居者の希望を把握したり、家族の不安に対応している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の話をよく傾聴し、希望や要望に添ったプランを立てている。本人が希望等話せない場合は、家族にも相談し、本人に合った生活をして頂ける様常に考えている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ホームに入所される前に利用されたサービスの内容、情報提供書をよく確認し、わからないところは、以前担当されたケアマネや医師・看護婦又家族の方々に話を聞いている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の体力・状態に合わせて、みんなそれぞれの一日を過ごして頂いている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>今の入居者に必要なケアを提供できるように、昔得意だった事、本人の好きな事を日課として取り入れ、又、スタッフの意見を聞き入れながら、本人に合ったプラン作りを考えている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入院した後や、状態が変わった時は、随時アセスメントをやり直し、その時の入居者の状況に合ったプランをたてるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に良い介護が出来るように話し合い、現在の様子やその後の状態を細かく記録して、誰もが見やすい記録作りを目指している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るだけ本人や家族の要望を聞き、外出や外泊の希望にも対応出来る様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の人や消防の人に来所して頂き、入居者と話をしてもらったり、避難訓練を行っている。		ボランティアの人をもっと受け入れて、交流を深めていきたいと思っています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要によっては、他のサービス活用支援ができるように資料を取り寄せたり、他の施設と連絡を取れる体制を取っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターと連絡を取ったり、運営推進会議の時に入居者の様子を見て頂き、意見交換をしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医を聞き、希望に添った受診が出来る様に支援している。又主治医の先生と連絡を取り、入居者にとってより良い受診が出来る様に努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>4週に一度は定期受診に行っているが、必要に応じて受診できるように対応している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>爪切りの難しい方や、耳垢掃除等、又入居者への健康の心配に対して、小さなことでも電話連絡等で気軽に状態を説明し対応出来るように日頃からコミュニケーションをとって対応を考えている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中の時など不安にならないように、順番を決めて様子を見に行き、食事介助をしたり、洗濯物を取りに行ったりしている。又、その時に相談している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>体調に変化があるので、その状態をスタッフ全員で話し合い、医師と密に連絡を取り合い、対応している。特にホームが入居者にとって家であり、家族であることを考えて支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医の先生と話し合い、運営者・スタッフでホームで出来ること、出来ないこと、入居者にとって一番良い方法をよく話し合い、検討している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ケア関係者で、家族や本人の状態を話し合い、情報交換の為に常に連絡を取り、出来るだけ不安などないように気をつけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人のプライドを傷つけないよう、又人生の先輩として言葉掛けには十分気をつけています。記録も外部に漏れないようにきちんと管理しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来る限り入居者の意向を聞いています。しかし、希望が言えない方も中にはいますが、ゆっくりペースで話をしたり、わかりやすく説明し、本人の考えていること・思っていることを聞くようにしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り入居者の希望や要望を取り入れて介護を行っていますが、他の入居者の都合や状態によって優先順位が変わることもあります。希望を聞いても本人の意志が変わってしまう事もあるので、様子を見ながら支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>開所以来、ずっと利用している訪問美容師にて散髪してもらっている。しかし、孫の結婚式の為、入所前に通っていた美容院に行った方もいます。毎日お化粧をかかさず行い、身なりに気を配っている方に、おしゃれが持続できるように気を配っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立も出来る限り、好みを聞き入れ取り入れている。料理の下ごしらえ等も、得意な方に頼んで見守りしながら行ってもらっています。日曜日の昼食は、スタッフと入居者一緒に、世間話等しながら食事しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>たばこも本人と話し合い、本数を決めて吸っている方もいます。お酒は行事の時に、少したしなむ程度に飲む方もいます。おやつや、水分補給の飲み物は、随時各入居者に好みを聞きながら提供しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>出来るだけ気持ちよく生活してもらう為に、トイレにての排泄に心掛けている。トイレの間隔が長いような方には、声掛けを行い様子を見ながらトイレ誘導を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的にはいつでも本人の希望に合わせて入浴出来る様になっています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>本人の希望に合わせて休息して頂いています。天気の良い日には布団を干したり、夜良く安眠できるように、日中適度に身体を動かしてもらっています。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>新聞の購読が出来る様にしたり、動物(猫)や植物の世話をする事を通じて楽しみが持てたり、一人一人が興味を持てることを探して支援しています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つことでのトラブルを避けるために、施設でお金を預かっています。但し、必要に応じて買い物に行く時などお金を所持したり、支払ったりしています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>季節や天候・身体の状態に合わせて希望に添った外出が出来る様に支援しています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>行事担当者が、月に2回計画を立てて、外出や誕生会など色々な行事を計画しています。その他は希望を聞き、個別外出の支援を行っています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望・要望をよく聞き、電話や手紙が送れる様に支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限がないので、都合の良い時間に訪問して頂いています。又、一人一人個室なので、ゆっくりと一緒の時間を過ごしてもらっています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの重要性をスタッフは認知しています。スタッフ間でよく話し合い、身体拘束をしなくてもすむ方法を考えています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の周りの扉は時間帯によって(AM10:30～PM16:00まで)開けてます。玄関の鍵は夜間帯のみで日中は鍵はかけていません。そのかわり、スタッフの見守りを重視しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者全員個室なので、スタッフが自然な形で所在確認・夜間帯の巡視・様子の確認ができるよう気をつけています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の中には、お裁縫が好きな方もいますので、縫い針や待ち針の本数を毎回確認し、はさみなどの管理も徹底しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故がおきないようにスタッフ同士で常に話し合っています。又、万が一起きてしまった場合でも、「事故報告書」を残して再発防止に向けて努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変に対して、全スタッフが対応できるように常に話し合い、連絡ノートや申し送りノート等を活用し再確認できるように体制をとっている。又、誰でも応急手当が出来る様に本が購入してあり、確認できるように準備してある。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練を行ったり、地震・水害が起きた場合を考えて話し合っている。又、地域の人々の協力が得られるように働きかけています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所の際、リスクの件については細かく説明しているが、何か不安がある時や、要望に対してもリスクについて説明し、できるだけ希望に添えるように話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	実施記録や申し送りノートに、入居者の様子や状態・気づき等を記入し、全スタッフがそれらを目を通し、対応できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は誰でも見られるように、きちんとファイルしている。薬が変わるたびに申し送りに記載し全員が把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便・排尿の様子を記入している。特に排便は表を作成し、1～15・16～31日までの様子が9名分一目で解るようにしている。又、便秘気味の人には、牛乳を毎朝出したり、人によって夕方に変える等の工夫をし、お腹のマッサージや身体を動かして頂く様働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後歯磨き、義歯洗浄を行ってもらっている。又、定期的に歯科受診を行い、義歯や口腔状態の検査をしてもらえるようしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施記録に食事量・水分量を記載している。又、栄養のバランスが取れる様にメニューを作り努力している。又入居者が食事が摂れない状態になったり、嫌いな食べ物だったりした時は、メニューを出来るだけ変えて食べて頂けるよう工夫をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する対応方法の資料を取りよせ、全職員が必要に応じて話し合い、対応にあたっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の掃除の他にも常に調理器具等を殺菌・消毒している。又、食材に対しては、スタッフ同士で話し合い消費期限を守り管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周りの塀も危険防止の為に建てられているが、時間を決めて開けてあり、玄関周りも、花や植木を置き、居心地が良くなるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓には2重のカ - テンを使用して直射日光が当たったり、防寒具になるように使用している。又、季節感が出るようにその時期にあった催しを行い、作品や花などを置いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各自、自分の部屋を持っていますので、その時の気持ちに合わせて過ごして頂いています。又気のあった人達の席を近くにして、話しやすい・居やすい環境作りに気をつけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族の方や本人と話し合い希望した物や、思い出深い物を持ってきてもらっています。又、後日必要に応じて購入したりして出来る限り個々にあった住みやすさを工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は常時行い、全スタッフが把握できるように記録や申し送りをしたりしています。又、においや空気のよどみがないように換気扇やエアコンの掃除を随時行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態を把握して、声掛けを行い、洗濯干しや、洗濯畳み、掃除や、料理の下ごしらえ等、本人が得意なこと、出来る事をして頂き、協同しあい助け合えるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の出来ることを見極め、声掛けをしながら豊かな生活ができるように支援している。又、混乱や失敗した時の支援方法もスタッフ同士で話し合っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	植木や、水まき、散歩、猫とたわむれたり、日なたぼっこなどをしたりし、入居者が楽しく過ごせるように工夫している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者や家族の希望に添った介護をしようとしています。又、自分の家族を施設に入所させたいと思えるようなホ-ム造りを目指しています。何か出来事があっても、スタッフ同士で話し合い(ミ-ティング)を行い、報告・連絡・相談を常に頭におきながら、連携を大事にしています。